

平成24年度地区別市政懇談会意見・要望 上地区

平成24年11月1日

No.	質問内容	地区別市政懇談会における回答	現在の状況及び今後の対応等の補足	担当課
1	地域まちづくり計画で、地域が主体となって取り組む部分についてはどう評価するのでしょうか。今回の説明では触れられていません。	地域の皆さんが協働ということで、様々な活動をしていることは承知しており、感謝しています。今回の懇談会では提案が遅くなり実現できませんでしたが、今後お互いが活動を報告し合うような形式で行ってきたいという希望がありますので、よろしく願いいたします。	当日の回答に同じ	企画課
2	上地区の活性化計画は実施計画と理解してよろしいでしょうか。	活性化プロジェクトの事業期間は総合計画の前期5年間に合わせています。具体的に実施計画として事業を進めていくためのものです。また、27年度以降も継続していく必要性は当然ありますので、その中で見直しをし、後期の総合計画と関連付けながら進めていきます。	当日の回答に同じ	企画課
3	湯の沢団地は秦野市と松田町の境界に分断されています。しかし、行政境を超え地域の繋がりを大切に自治会活動などはできるだけ協力していきたいと考えています。	災害への備えやイベントなど地域の活動を基礎に協力という機運を醸成していただきたいと思います。行政の連携についても、協力できる部分については今後の課題として話し合いを進めていきたいと考えています。	当日の回答に同じ	地域主権推進担当
4	まちづくり計画を協働で進めていくには総合計画策定時の協汗職員のような、地区担当職員が必要ではないかと考えます。	(要望)	要望として受け止めますが、現在、自治会員や消防団員、青少年指導員として地域に溶け込み、一体となっている現役職員も多くいます。	企画課・市民自治振興課

平成24年度地区別市政懇談会意見・要望 上地区

平成24年11月1日

No.	質問内容	地区別市政懇談会における回答	現在の状況及び今後の対応等の補足	担当課
5	上地区には市街化調整区域が多く転入者が家を建てられる場所がありません。特区などを設けることはできないのでしょうか。	上地区の活性化プロジェクトにおいて若い方々の移住を促進するための様々な総合的な施策を考えています。それを下支えするものとして特区ということではありませんが、里地環境型住宅の開発許可制度の導入ということで上地区の市街化調整区域に限り、上地区の里地環境に合った建物を建てられな いか、様々な条件があろうかと思いますが、検討中です。	12月議会で「秦野市市街化調整区域において許可する開発行為等を定める条例」の一部が改正され、平成25年度4月1日から「さと地共生住宅開発許可制度」がスタートします。今後一層上地区コミュニティの活性化と人口増加を支援していきます。	企画課
6	農振農用地について、担い手がいけないという状況を鑑みて、転用ができるような規制緩和はできないでしょうか。	荒廃化などの問題はあるものの、日本の農業を守るということで位置付けられており、目的外利用は困難です。農地としていかに利活用していくかということをしっかり検討していきたいという考えです。	当日の回答に同じ	農産課
7	秦野の財産である水資源の大切さを子どもたちにしっかり教育していく必要があると考えます。	教育環境ということで、要請に応じ幼稚園から小学校までエコスクール事業を行っており、秦野の地下水について講座を実施しています。また、小学校の環境教育の時間割の中でも秦野の水資源の豊かさ、それは無尽蔵ではなく大切にしてい く必要があることを学んでもらっています。	当日の回答に同じ	環境保全課
8	公共下水道を引いてもつながない人がいるようですが、対応はどのようにしていますか。	下水に直結できる区域はつないでもらうというような考え方で、担当部署でもつなぐよう働きかけは行っており、少しずつではありますが、成果は出ていると考えます。	公共下水への接続のお願いを市のホームページに掲載するとともに、広報はだのにも年4回掲載しています。また、該当する世帯等には、1年目に供用開始のお知らせを、未接続の場合には2年目、3年目にもそれぞれはがきを発送し、接続を呼びかけています。さらに、水洗化普及囑託員を中心に戸別訪問をし、水洗化の促進に取り組んでいます。	下水道総務課

平成24年度地区別市政懇談会意見・要望 上地区

平成24年11月1日

No.	質問内容	地区別市政懇談会における回答	現在の状況及び今後の対応等の補足	担当課
9	四十八瀬川は県の管轄で平塚土木の管理ということですが、環境をよくするためにも草刈りをしてもらえないでしょうか。	四十八瀬川に限らず水無川の上流等にも草が繁茂しています。葛葉川も同じような状況です。これらの川は地元自治会で市民の協働により美化活動をしていただいているのが現状です。その際は県から若干のお茶代程の謝礼は出ますが、地元で汗をかいていただいているところです。できれば同じように地元の皆さんで手を入れていただくのが理想だと思いますので、よろしくお願いします。	当日の回答に同じ	国県事業推進課
10	一般会計で下水道整備の費用がかなり拠出されていますが、何に利用されているのでしょうか。	下水道特別会計の不足分を補うもので、整備費として必要なお金を繰り出しています。	当日の回答に同じ	財政課
11	生き物の里付近の土砂が、降雨時に自身の畑に流れてきます。排水等の対策をお願いします。	後ほど現地を確認させていただきます。	現在、関係課と調整中です。	道路管理課
12	自治会の役員のなり手がいなくなったりと、存続が困難なところもでています。	東北の震災以来、地域の絆の大切さが再認識されていることと思います。地域の祭りなどイベントを通じ、活動の魅力向上を図り、隣近所の交流を持っていただくことが大切ではないかと考えております。また、自治会を合併したところもあり、このようなことも存続の手法の一つではないかと考えます。	当日の回答に同じ	市民自治振興課
13	上小学校と上幼稚園が統廃合により廃止されることには反対です。存続して欲しいと考えます。	現在、廃止という考えはありません。上地区の活性化計画のひとつの施策として教育環境の情報発信があります。その中で、上小学校に限り、通学区に関係なく通学できる特認校制度の検討などもあげられています。	当日の回答に同じ	学校教育課

平成24年度地区別市政懇談会意見・要望 上地区

平成24年11月1日

No.	質問内容	地区別市政懇談会における回答	現在の状況及び今後の対応等の補足	担当課
14	新東名高速道路ができれば、その近辺を流通拠点にというような話は出ているのでしょうか。	上地区は市街化調整区域であり、土地利用上の制限があるため、現在のところそのような動きはありません。条件は厳しいものの、インターチェンジの開設により、産業活動の交通利便性を高め、常にアンテナを張り巡らしながら、地域の活性化に向けた検討をしていきたいと考えます。	周辺一帯は市街化調整区域のため、自然的土地利用となっています。地元の「上地区活性化検討協議会」の提言を踏まえ、良好な営農環境の保全や農業経営の安定化を図るとともに、四十八瀬川等の良好な自然環境等の地域資源を活用し、都市住民との交流の促進など、地域の活性化を図っていきたいと考えています。その一方でインターチェンジに接続する国道246号の沿道部は、その広域幹線機能を十分に活用し、地域の活性化や農業振興に資する施設の立地を誘導していくことが望ましいと考えます。	新東名周辺整備担当